

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導と生徒の主体性を育む学習活動を推進する。</p> <p>②基礎的な学力と応用力の育成を図り、組織的な授業改善をさらに推進する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動など生徒一人ひとりが積極的に取り組み、主体的に生きる力を育成する。</p>	<p>①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導と主体性を育成する学習指導に取り組む。</p> <p>②コミュニケーションの技能を高めることを視野に入れた組織的な授業改善を進める。</p> <p>③生徒会行事に人権を意識しながら、生徒一人ひとりが主体的に取り組むよう計画や運営を支援する。</p>	<p>①全クラス多展開を継続し、きめ細やかな指導と生徒の多様な進路希望に対応できるよう教育課程の再編成等も視野に入れる。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の育成とコミュニケーション技能の向上のために研究授業や教員相互の授業見学等をより推進する。</p> <p>③人権意識を高めながら生徒会役員や学校行事の実行委員に対し、決め細やかな助言、指導をする。</p>	<p>①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や生徒が主体となる学習活動が展開できたか(生徒による授業評価)。</p> <p>②組織的な授業改善や教員相互の授業見学をさらに推進することができたか。(授業見学回数と教科会の振り返り)</p> <p>③生徒会行事に生徒が人権を意識しながら主体的に参加することができたか。(アンケート等)</p> <p>・取組みの過程で課題の発見や課題解決に向けて、主体的に考え、実践したか。(アンケート等)</p>	<p>①生徒による授業評価の「授業の充実感」の項目で、「かなり当てはまる・ほぼ当てはまる」の全教科の平均が第1回目77%から第2回目80%になり、改善が見られた。</p> <p>②「組織的な授業改善」のための研究授業・研究協議とあわせ、人権尊重を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」について講師を招き、研究を深めることができた。</p> <p>③体育祭においては全体を通して仲間と協力し合いながら主体的に活動出来たとの回答が8割以上の生徒から得られた。概ね目標を達成できたと考えられる。彩綾祭におけるアンケート回収率は6割ほどであったが、その内約8割の生徒が主体的に活動し楽しめたと回答し、おおむね目標を達成できたと考えられる。</p>	<p>①「生徒主体の授業の工夫」で「かなり当てはまる・ほぼ当てはまる」の全教科の平均が63%から70%に向上したが、他の項目と比較してやや低く、教科により差もあるので、「組織的な授業改善」の研究授業のさらなる共有を進める。</p> <p>②授業見学は65.5%で、前年比3.0%減だった。今後、授業改善の一つの方法として見学を促していく必要がある。</p> <p>③今後さらに学校全体が協力体制を強化するために、生徒1人ひとりの仲間と協力する意識が行事を通して育成されるように努力する。</p>	<p>・多くの科目で調べ学習からの発表が行われているようだが、さらなる内容の充実が期待される。グループワークや生徒相互の教え合いなどについて外部の研修も参考に授業改善を進めてほしい。</p> <p>・身体に障害のある生徒をすでに複数受け入れているようだが、インクルーシブ教育を意識して今後も取り組んでほしい。</p> <p>・行事等の活動を通して、生徒の自己肯定感が高まっている。</p>	<p>・人権教育研究指定校の取組を通して、アクティブラーニングの効果的な方法を教師が理解して取り組んだ。授業研究や研修も促進できた。</p> <p>・生徒会行事において、生徒が主体的に参加し、自己肯定感を高めることができた。</p> <p>・生徒会行事を通して、生徒がさらに主体的に取り組めるように、生徒会及びホームルームでの教師からの効果的な助言を工夫する。</p> <p>・学年が進むにしたがって、生徒の自己肯定感がさらに高められるように、生徒の活躍する場面を増し、生徒の参加を働きかける。</p>	
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた課題解決能力の育成と支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の充実を通して責任感やコミュニケーション力の涵養を図る。</p>	<p>① i 生徒指導のあり方を、指導から支援へと円滑に移行するために、教育相談体制の充実を図る。</p> <p>ii 人権教育への取組を通じて、他者尊重の意識・人間関係調整の技能を育成する手法を研究・考案する。</p>	<p>① i スクールカウンセラーやスクールメンターの制度を活用するとともに、適切な連携の観点から、生徒の状況や悩みに関して速やかに情報の共有・交換を行う。</p> <p>ii 研究機関等訪問調査・人権教育指導者養成研修講座受講・職</p>	<p>① i 利用件数・打合せ実施回数</p> <p>ii 調査報告・各研修会実施後のアンケートの分析結果</p>	<p>① i 2月22日現在のスクールカウンセラー利用件数51件</p> <p>ii 産業能率大学訪問・人権教育指導者養成研修講座受講・職員対象校内人権研修会実施(同和問題・チームビルディング)・生徒対象校内人権学習会実施(1年男女共同参画・人権ワークシート)・埼玉県立桶川高等学校訪問</p>	<p>① i 情報共有の打合せは様々な場面で随時行っており、年間で複数回に及ぶ。</p> <p>教育相談コーディネーターの負担は依然として大きなものとなっている。</p> <p>ii 各研修会の記録やふりかえりの材料がやや不足している。</p> <p>ワークシートを用いた人権学習の事後アンケートでは9割以上の生徒が有益だったと回答した。</p>	<p>・教育相談コーディネーター中心の教育相談は、情報が直接キャッチできる仕組みとして、大いに活用すべきだ。担当者の負担も配慮してほしい。スクールメンターについては、あまり生徒に知られていない。もっと活用できるように、生徒へ理解を促す必要がある。</p> <p>・遅刻者が3年生で増えている。卒業まできちんと生活習慣が保たれるよう指導してほしい。</p>	<p>・スクールカウンセラーと教育相談コーディネーターが連携して、教師との生徒の情報共有が効果的にでき、支援に役立てることができた。</p> <p>・スクールメンターの授業補助や巡回、図書館などでの生徒との会話などから細密に困り感を掴み、教員につながることができた。</p> <p>・1・2年生対象に人権学習を行い、自己理解や他者理解等を進め</p>	

				員対象校内人権 研修会実施・生 徒対象校内人権 学習会実施					ることができた。	容や方法を考え、 次年度も継続して 実施する。
3	進路指 導・支 援	① 生徒の主体的な活動を通して、進路実現・自己実現を果たす力を育成する。 ② 生徒のあらゆる進路希望を十分に支援できるキャリア教育体制を構築する。	② キャリアガイダンスプログラムの活用を深化し、各学年を中心に生徒の主体性を育成する進路支援に取り組む。	② 「進路講座」「進路ガイダンス」を中心とした日常的なキャリアガイダンスを展開する中で、切れ目のない3年間の進路支援を構築するとともに、進学講習、実力診断テストや進学模試、就職・公務員模試等を実施し、学習意欲を喚起する。	③ ・進路講座開講数と参加人数 ・進路ガイダンス実施回数 ・インターンシップ参加人数 ・進学模試、就職・公務員模試実施回数と参加人数	③ ・進学講習 16 講座 179 人が受講。進路講座 18 回実施。 ・進路ガイダンス 28 回実施。インターンシップ 53 人参加。進学・就職・公務員模試合計 20 回実施・247 人受験。進路希望に応じた様々なキャリアプログラムを実践し、主体的な進路活動につなげた。	・安易な進路選択につなげない、切れ目のない進路支援体制の更なる模索。(学年主導による年間キャリアプログラムを定期的・総括的に検証し、その効果的な実施を目指した検討結果を次年度に活かしていく。) ・進路決定後も変わらない学びの支援。(学習支援、生活支援と協働した定期的な事後指導を、次年度の課題とする。また、進路支援としてACTの講座を展開し、決定者に対する卒業後も継続していく学びにつなげていく。) ・教職員対象のキャリア研修会を継続して実施することで、その意識やスキルの更なる向上を目指す機会とする。	・インターンシップの取り組みは、進路決定に大いに役立つ。OB会やPTAのネットワークを活用してさらに充実させてもよいのではないか。 ・専門学校への進学が増えている。当初大学への進学を希望していたが、専門学校へ変更した生徒が多い。最後までチャレンジする生徒を育ててほしい。 ・公務員合格者が1名と少ない。2年生は、進路目標を達成できるように生徒の指導を工夫してほしい。	・進路講座、進路ガイダンス、インターンシップ等を通して、生徒の進路意識を高めることができた。 ・最後まで粘り強く進路目標を追い続ける生徒も何人かいて、その生徒たちが進路実現を果たした。	・今後も、キャリア教育の内容や実施時期等を研究しつつ、生徒に進路目標をしっかりと定めさせるよう取り組む。 ・最後まで進路目標に向けて、チャレンジする生徒が増えるよう、指導体制を整備していく。
4	地域等との協働	① 地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	① 地域との連携・協働を通じて、生徒に地域での役割や活動の場を増やし、生徒の自己肯定感の醸成を図り、判断力、実践力の向上を目指す。	① 地域における、防災訓練、花植え作業、商店街との共同企画イベント等に、生徒を積極的な参加を促す。 ・ふれあい交通安全指導や交通安全出前授業を通じて地域連携、交流を図る。 ・学校全体として、人権を意識させながら主体的な活動を支援し、ボランティア活動に対する意識を高める。	① ・説明会開催数 ・説明会参加人数 ・実施回数 ・ボランティア参加者数 ・地域・自治会等からの意見など ・実践の結果を事前事後のアンケートやワークシートの記述から分析し、生徒の自己肯定感の推移について調査する。	① 年間で 21 の活動を実施した。参加延べ人数は 463 名であった。(全校や学年全体での取り組みは除く。) 小中学校への出前授業において防犯・犯罪防止などを呼びかける活動を通して、人権意識を高めることが出来た。	・アンケート調査を実施できなかったため、実施しやすい様式や質問内容を検討する必要がある。 ・生徒会や委員会、部活動の生徒などの参加が多いので、一般の生徒の参加数を増やすように工夫する。	・防災訓練に参加した生徒は、人数は少なかったが、自主的な参加であり、動きなどがきびきびしていてよい印象だった。今後、高校生の参加を大いに期待している。 ・小学校で実施した非行防止教室は、内容がとてもよかった。今後も活動を継続し、内容も充実させてほしい。 ・地域の交通安全指導に高校生が参加しているのはありがたい。今後も、高校生の協力を期待している。 ・地域貢献活動などはPTAの広報誌で紹介するとさらによい。	・外部の行事等への参加依頼が増え、生徒の参加も次第に増加している。 ・地域の防災訓練へ主体的に参加する生徒もいる。訓練への取り組みも、積極的に行われていた。	・地域での小・中学校への取組が拡大するよう生徒へ働きかける。 ・主体的な地域貢献活動を支援して、ボランティア活動への参加生徒を増やしていく。 ・ふれあい交通安全指導を通して、生徒が自己肯定感を高められるように指導を継続していく。
5	学校管理 学校運営	① 教育環境の整備と広報活動の充実に取り組み、開かれた学校づくりを進める。 ② 安心・安全の学校づくりを基本に情報管理を徹底する等、事故不祥事ゼロとする。	① 広報活動を充実させ、信頼される学校づくりを推進する。 ② 事故不祥事ゼロをめざす。	① ホームページを通じた情報発信を随時行い、学校の取組みを外部にアピールするとともに、家庭への連絡も掲載し、家庭と学校との連携強化に活用する。 ② 年間を通して、計画的に職員研修会を行う。	① ホームページへの更新状況とそのアクセス状況。 ② 職員対象研修会の充実状況。(職員対象日常点検等)	① 3月2日現在ホームページアクセス数が大幅に増えた。(1年間で+49,650回) ② ・ゼロプロ研修6回、外部講師による研修1回を実施。 ・職員対象日常点検等をほぼ毎月、年10回実施した。	・今後、ホームページから家庭向け保護者通知をダウンロードできるようにするなど、改善に取り組む。 ・不祥事ゼロの達成のため、継続して実施していく。	・受検生の人数が多くて驚いた。綾瀬高校を目指して受検する中学生が多い。今後、広報活動を効果的に行うとよい。 ・夏休みちよっぴり体験は児童が楽しみにしている。対象の学校が広がったことはよい取組である。対象学年が絞られてしまうのが残念。	・綾瀬市のみでなく、他の地域からも多くの生徒が入学を志願している。 ・夏休みの「ちよっぴり体験」は、市内全体の小学校から募集するようになり、参加人数も拡大した。一方で、参加学年等を絞らざるを得なくなっている。 ・不祥事ゼロを実現している。	・広報活動の内容や方法を研究して、さらに学校の特色を外部へ効果的に発信する。 ・不祥事防止研修を、職員自らのこととしてとらえられるような実施方法を研究し、効果的な研修会等を実施する。